

Ⅱ 音楽「ほしのおんがくをつくろう」

(2組)

1 学習の概要

音楽に関心が高く、歌ったり、踊ったりするのが大好きな子ども達です。しかし、中学生になると嫌いな教科になっていってしまうことも多いです。原因として考えられる一つとして、楽譜が読めなかったり、鍵盤楽器やリコーダーが苦手だったりということが考えられます。そこで、楽譜が読めて、好きな曲を鍵盤ハーモニカで弾くことができるようになったら、音楽が大好きな子どもが増え、一生の宝物になれば嬉しいなと思い、自分で考えた旋律を音楽にしていくなり学習に取り組みました。

2 ねらい

○短い旋律をつくったり、仕組みを生かしたりして、音を音楽にしていくなり楽しむ。

3 取り組み

(1)「きらきらぼし」を鍵盤ハーモニカで演奏しよう

どんな星が好きかな？自分の思う星のイメージはどれ？



《星のイメージの写真》

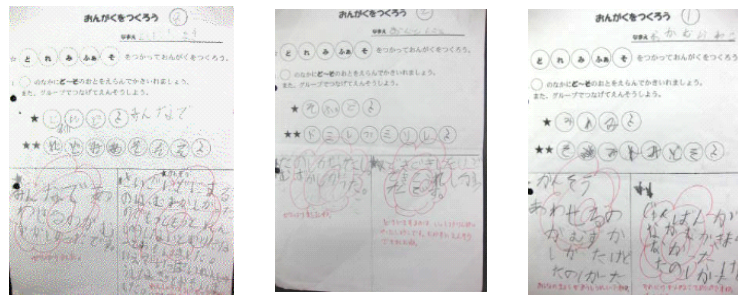
まず、「きらきらぼし」を階名や歌詞で歌い、鍵盤ハーモニカで演奏したり、グループでリレー演奏をしたりします。拍の流れにのって演奏することで「繋げよう」とする思いをもって取り組むことができました。自分の思いのある星を選び、イメージを膨らませて演奏しました。

(2)「ドレミファソ」を使って音楽をつくる

次に鍵盤ハーモニカで「問いと答え」を使った音楽ゲームを行い、即興的な表現を楽しみました。

①4拍子の曲を1小節つくって、「問いと答え」を使った音楽ゲーム

・「ドレミファソ」の中から3音（4拍目は4分休符）を選びワークシートに書き入れます。



《ワークシート》

- ・選んだ旋律を鍵盤ハーモニカで練習します。
(途中で変更してもよい)
- ・「問いと答え」を使った音楽ゲームを教師対子ども一人ずつ行いました。

【例】 教師：ピアノで「ドミソ はい！」→子ども：鍵盤ハーモニカで「ミレド ♪ 」

- ・子ども対子どもでも「問いと答え」を使った音楽ゲームを行いました。



《音楽ゲームの様子》

②「きらきらぼし」を教師と子ども全員で2小節ずつ交代しながら、リレー演奏はじめは、拍の流れにのって演奏することが難しく、途中で止まってしまい一曲にまとまりませんでした。友達の弾いている曲を聴いていないと続いて入れないことに気づくことができました。

③4拍子で2小節（7音）の曲をつくって、3音の時と同様「問いと答え」を使った音楽ゲーム

- ・長い旋律にも挑戦しました。3音の時より集中して取り組み、真剣に取り組む姿が印象的でした。

(3) ほしのおんがくをつくろう

- ①「どれみのほし」から7音を選んで旋律をつくり、各自練習します。
- ②グループでつなぎ方を工夫して順番を決め、一つの曲にまとめ発表しました。
- ③「きらきらぼし」の1・2小節目と5・6小節目はグループ全員で演奏し、3・4小節目に自分で考えた旋律を挟んで曲をつくり、ミニコンサートをしました。

「ほしのおんがくをつくろう」ミニコンサートをひらく
日時 11日11日（金）4時間目（学校公開日）
場所 第2音楽室
方法 グループで演奏発表



《ミニコンサートの様子》

4 成果と課題

好きな音楽が思いのまま自由に演奏ができ、楽しく取り組むことができました。初めは、苦手意識をもっている子どももいましたが、練習を重ねていくうちに、弾くことができるようになりました。そして、まねっこ遊びゲームの教師役を行うことができるまでになりました。達成感から意欲が高まり、音を音楽にすることや演奏の楽しさが分かってきたと思います。

今後の課題は、表現方法を身につけさせて、自分の思いが音楽によって表現できるように、そして自信をもって人前で演奏することができるようになってほしいと思います。また、歌唱においても同様に美しい声で気持ちよく歌うことができるように、学習活動を工夫し、また展開していきたいと思います。

